HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭の辞
Author(s)	中村, 睦男
Citation	北大法学論集, 39(5-6上)
Issue Date	1989-08-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/17018
Type	other
Note	五十嵐清及び藪重夫の肖像有
File Information	39(5-6).pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

五十嵐　清 先生

藪　　重夫 先生

巻頭の辞

本誌特集号は、一九八九年（平成元年）三月三一日に停年退官される五十嵐清先生および藪重夫先生に捧げるために編まれたものである。

五十嵐清先生は、一九四八年（昭和二三年）に東京大学法学部を卒業後、東京大学大学院特別研究生を経て、一九五〇年（昭和二五年）に北海道大学法経学部助教授に就任され、一九五九年（昭和三四年）に法学部教授に昇任されました。この間三九年にわたり、五十嵐先生は、専門課程の比較法、民法、国際私法、教養課程の法学を担当されるとともに、幅広い研究分野にわたる学識と独仏英露に及ぶ語学力をもって大学院教育における研究者養成に情熱を傾けられてこられました。北大法学部から巣立って行った法学関係の研究者は、多かれ少なかれ五十嵐先生のご指導とご薫陶を受けているといっても過言ではありません。また、法学部生の課外活動として伝統を有する法律相談室の顧問を当初より引き受けられ、そのなかから今日社会で活躍している多くの法律実務家を育てられました。さらに、先生のスラブ研究センター運営委員としてのご貢献も忘れることができません。五十嵐先生の厖大な研究業績の特色につきましては、本誌特集号下巻に掲載されている小川助教授の解説に譲りますが、比較法および比較民法学のパイオニアとして学界に大きな足跡を遺されております。

藪重夫先生は、一九五〇年（昭和二五年）に北海道大学法文学部法律学科の一期生として卒業後、北海道大学大学院特別研究生、北海道大学法学部助手などを経て、一九五七年（昭和三二年）に助教授に就任され、一九六二年（昭和三七年）に教授に昇任されました。この間、藪先生は、専門課程の民法、教養課程の法学を担当されるとともに、大学院

において民法研究者を養成されてこられましたが、とりわけ、先生が学部のスタッフとなられた初期と最後の一〇年間は、教養部の教育に情熱を注がれました。藪先生が明晰な頭脳によって明快で分かり易い講義をされるという定評は、三〇数年間一貫して変らないものでありました。また、藪先生は、一九八一年（昭和五六年）から二期四年間にわたって教養部長の激職に就かれ、北海道大学の教養教育の充実に卓抜した行動力を発揮されました。さらに、先生が地域の各種審議会に学識経験者として参加し、地域社会に貢献されていることも指摘しておかなければなりません。藪先生の研究業績の特色につきましては、林田助教授の解説を参照していただきたいが、民法の基本的問題に対する洞察と法的紛争の具体的解決に対する合理的思考に富むものであります。

藪先生が法文学部一期生として卒業された年の四月に、法文学部は法経学部と文学部に分離し、その法経学部助教授に五十嵐先生が就任されました。当時、法経学部法律学科は、法律学一二講座、政治学一講座のところ、専任教官が八名しかおらず、なお転出者があり、教官不足が深刻な状況にありました。その後、学部の充実は何よりも先ず教官人事と図書の充実であるという学部の方針が確立されでゆくことになりますが、この間、五十嵐先生は、一九六六年（昭和四一年）一月から二年間、藪先生は、一九六九年（昭和四四年）一二月から二年間、学部長職に就かれ、学部の充実に努められました。現在、北海道大学法学部が教授、助教授総数四九名という教官スタッフを擁する全国有数の法学部に成長しましたことは、草創期の苦しみを経験され、法学部を支えてこられた五十嵐先生、藪先生のご苦労に対する最大の餞けになるものと考えております。

一九八九年（平成元年）三月

北海道大学法学部長　中村睦男